

年間第18主日

第一朗読 コヘレト 1・2、2・21-23
第二朗読 コロサイ 3・1-5、9-11
福音朗読 ルカ 12・13-21

2025.8.3 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の福音の箇所も——ここ数週間ずっと同じように、ですけれども——イエス様がガリラヤ地方からエルサレムの都に向けて旅をしている、そういう旅の途中の出来事として語られています。

実際に、ルカの福音書の中ではこの旅の途中のエピソードというのが一番大きな部分を占めているわけですが、それというのは、この旅の——イエス様が一日目どこに泊まって、二日目どこに行っていく——空間的な移動を述べたいというよりは、イエス様が弟子を伴って、そしてご自分のなさるべきことに向かっておられるという点で、弟子たちを教育している。そういう意味では、イエス様と共に旅をしている弟子たちの心の中の内的な成長の旅というふうに位置付けることができます。で、そういう意味では、その当時の弟子たちだけではなくて、わたしたちも当時の弟子たちと一緒に、またイエス様と共に、内的にイエスに近づく——イエスに呼ばれた者としてその道を歩んでいこうとする——その歩みを深めていく、そういう呼びかけがされているということができると思います。

で、今日の福音の最後にイエス様が、「自分のために富を積んでも神の前に豊かにならない者」という言葉が使われたわけですが、そういう意味で、「自分のために富を積んでも神の前に豊かにならない者になるな」と、そういうような呼びかけですね。「イエスの弟子として歩む者は」ということになるわけですが、それはどういうことなのでしょうかと。

神の前に豊かになるとはどういうことか。それを、あたかも『自分のために富を積む』っていうのはお金とか物質とかっていうことであって、そして『神の前に豊かになる』というのは自分の聖書の勉強とか祈りを深めるとか、信仰生活を通して天国の

中で成績を上げていく」みたいに考えるならば、それもやはり食欲と言いましょうか、自分のために富を積んでいるということになってしまうわけですね。

神の前に豊かになるということは、わたしたちは自分の力ではできないわけです。神様ご自身がわたしたちを満たしてくださるということを通して豊かにされていくのであって、そういう意味で、誰も自分の力ではキリストの弟子になれない、イエスを通してわたしたちが変えられていくということなわけです。そういうことでは、ある意味で神の前に豊かになるということは神様の業だから、それに委ねればいいので簡単である。しかし、わたしたちはその神様に委ねることができない思いがある。自分のために富を積みたいという思いが拭い難くあるので、神の前に豊かになる——神様が豊かにしてくださることに身を委ねる——ことは難しい。簡単であるようですけども、でも自分の思いがあるから難しいわけです。

で、その難しさを、今日の福音の中では遺産の争いというエピソードで提示されているということがミソですね。これは昔の話だけではない。ある弁護士の方に、「わたしは今、高円寺教会です」と申し上げたら、「杉並区ですか。クライアントがたくさんいます」とおっしゃったわけです。何のクライアントかと言えば、遺産相続の争いなんですよ。そういう意味で、皆さんの中にももしかしたらそういう渦中にいる方もいらっしゃるかもしれないし、その遺産の争いって本当に難しいですよ。何故かと言えば、それが自分にとっての公平とか正義とか——それを主張することが食欲ではなくて正義に関わる問題なんだっていうふうにどうしても思えるからなんじゃないかなと思うんです。しかし、じゃあその自分にとって正しいと思うことが実現するまで争い、それを追求し続けるのか、それとも、そうではない、そういうことも含めて神様に委ねるのかっていうことは——教会でお話を聞く分にはいいけれども——実際の中ではなかなか適用しにくいということの一つの——これだけではないと思いますけれども——大きな例なんじゃないかなと思うわけです。

では、神様に委ねるっていうことは、自分の望みもなくして何かこうより豊かになりたいという思いも捨てて、というか、無気力に生活しろ、全てのことに無関心で自分のことにもセルフ・ネグレクトで無気力に生活しろと言ってるわけではないわけで

す。むしろ、神様の前にも、自分は今これを願っているということを正直に素直に祈り続ける、でもその通りの答えが返ってこないっていうその時こそが、神様が何を望んでおられるのかっていうことがはっきり示されてるんだっていうふうに受け取れるか、それとも、まだ願いが聞き入れられないっていう思い、あるいは場合によっては祈りということが意味がないんだというふうに、あくまでも自分の望んでいることを中心に据えるかというのが問われる瞬間だと思います。

神様の御心、あるいは何によって神がわたしたちを満たそうとされるのかというのは、実は、日々の祈りを通して自分の願いがはっきりしている、そしてその願いに対して神様の答えが違う、つまり祈りが聞き入れられないと思う、その瞬間にはっきり示されているとわたしたちは読み取ることができる、ということは一つ言えるのではないかと思うんです。

もちろん、それは、祈り、そして願い通りのことが実現して与えられたっていうことの中にも見出すことができるけれども、しかし、わたしたちはそういうときにすぐそのことは忘れてしまい、そこにより深い、わたしたちの思い通りのことを起こさせる神様の御心を聞いていくっていうことを忘れてしまうわけです。

むしろ、わたしたちは、無気力になるのではなく自分の思いがはっきりあることを通して——こうなりたい、こういうものは欲しいという自分の願い、そういうことや物を通して、でもこの時点では——今は、っていうことだよね、将来は分かりませんが——そうではないっていう中に、神様の答えと言いましょうか、その状況を受け取っていくようにって、ある程度のところでわたしたちは信仰のうちに自分の思いを脇へ置くっていうことを覚悟しなければ、あるいは決断しなければならない。それが信仰の歩みの中の非常に難しいけれども避けては通ることができない点なのではないかなと思うわけです。

それを通して、でも神様が、わたしたちが思う富ではない、神様ご自身の恵みでわたしたちを満たし、また、わたしたちを通して周りの人を満たしていく。その計らいに任せるということですね。そういうことは、難しいけれども、神の前に自分のため

に富を積もうとするのではなく神の前に豊かにされる、そういう信仰の道なのではないかと思います。

口で言うのは易しいけれども、具体的な自分の生活の場面の中では忘れてしまうし、また難しい。だからこそわたしたちは神様の恵み、そしてマリア様をはじめとする聖人たちのみ跡に、模範を参考にしつつ、その取り次ぎに願い続けるということが大切なのだと思います。

今日も、ミサを通して、一人ひとり、ご聖体拝領の動作で——神様がくださるものを受け取りますということを動作の形で信仰を表明するわけですが、それが一人ひとりの心の中でイエス様の助けのうちに実現しますように。導きと助けに信頼の思いを持って信仰の歩みを続けていく思いを新たにしたいと願います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>